

テレビドラマにおける「助言」のストラテジーと 選択頻度に関する日中対照研究

黄 郁蓄

1. はじめに

「助言」という発話行為は、助言の受け手である聞き手の領域に入り込んで、受け手の行動を制約するという行為である。そのため、受け手のフェイスを脅かす行為になる可能性がある。しかしながら、同じ助言の場面でも、常に同じストラテジーが選ばれるとは限らない。例えば、先輩と後輩の関係にある二人の女性が、横断歩道を渡っているとする。その時、先輩の女性が「買い物に行った方がいいと思う？銀行に行った方がいいと思う？」と後輩に尋ねたとする。後輩の女性は、先に銀行に行くべきだという意図を伝えるために、「銀行に行ってお金を下ろしてから、買い物に行った方がいいと思います」と結論だけを述べることもできる。また、「お金が足りないと困るでしょうから、先に銀行へ行った方がよいと思います」と理由を添えることもできる。あるいは、「十分お金を持っている方が安心ですよ」と間接的に言うことで、銀行に先に行くべきだということを伝えることも可能である。以上のように、同じ助言の場面でも、そのストラテジーは多様である(鹿嶋, 2000)。我々は日常生活において、「助言」の意図を伝えるために、様々なストラテジーを選択することができる。

日本語と同様に、中国語においても、様々な助言のストラテジーがある。しかし、日本と中国を比較した分析では、両者の違い対立的に捉えられることが多い(久米・徳井・徐, 2000)。コミュニケーションの様式は、日本人が「迂回型・渦巻き型」であるのに対して、中国人は「対決型・直線型」であるや、日本人が「聞き手中心」であるのに対し、中国人は「話し手中心」である。また、日本人が「間接的」であるのに対して、中国人は「直接的」である等と、言われている。こうした日本人と中国人の社会・文化的な特性の違いが、助言におけるストラテジー選択に影響を及ぼすと仮定される。そこで本研究では、助言の送り手である話し

手の「助言」という発話に焦点を当てて、テレビドラマから事例を取り、日中の助言のストラテジーの選択における共通点と相違点を分析することで、どのような傾向がみられるかを考察することにした。

2. 先行研究

2.1 「助言」の定義

「助言」「依頼」「命令」は、聞き手にある行為をさせるという点において共通している。しかし、Searle(1969)は、「依頼」と「助言」を区別して、前者は聞き手に何かをさせようとする行為指示型の発話であるのに対し、後者は将来の行為が聞き手にとって最善のものであると伝える発話であるとしている。また、Searle(1979)は、「助言」を「依頼」「命令」および「禁止」と同じ行為指示型(directives)の発話行為に分類している。そして、行為指示型の特徴は、「話し手が聞き手にある行為をさせようとする試みであり、現実の世界が言語で示された世界に合致させようという方向性を持ち、願望の表明であり、命題内容は常に聞き手が将来ある行為を行うというものである」(訳は、町田, 2006, p.91)と述べている。さらに、Leech(1983)は「助言」と「命令」を区別し、「助言」は受け手の利益があっても助言の送り手には全くコストがかからない行為であると述べている。同様に、Tsui(1994)もある行動の遂行によってもたらされる利益の所属という点において「助言」と「命令」が区別されるとした。Tsui(1994)は、「命令」は話し手のためにある行為を行うことを指示するのに対し、「助言」は聞き手のためにある一連の行為を行うことの推奨であると述べている。このように、「助言」「依頼」「命令」は発話行為理論においてははっきり区別されてきた。しかし、こうした発話行為における区別はあくまで概念的な定義であり、実際の人の言語行動そのものを議論したものではない。その点で、実際の発話の流れそのものを説明するには不十分であると思われる。

以上のような発話行為理論の観点とは異なり、Brown & Levinson(1978, 1987)は、ポライトネス理論の中で、「助言」という行為をフェイス侵害行動の1つとして取り扱っている。「助言」は、「話し手が聞き手の行為の自由を妨害することを避けようとする意図がないことを(潜在的に)示すことにより、聞き手のネガティブ・フェイス欲求を脅かす行為」(訳は、田中, p.85)と定義した。また、「命令」や「依頼」と同じく、「助言」は「聞き手の将来的行為を叙述することにより、その行為をするように(またはしないように)聞き手になんらかの圧力をかけるような行為である」(訳は、田中, p.85)と述べている。Brown & Levinson(1987)は、「助言」という

言語行動を人間関係、社会・心理的距離、相手にかかる負担の度合いなどが複雑に絡み合う言語行動として取り扱い、「助言」に関する研究に大きな影響を及ぼした。しかし、Brown & Levinson (1978, 1987)のポライトネス理論における「助言」は、言語行動を行う理由、効果、結果などを説明する点では適切であるが、助言という言語行動のプロセスや構成を説明するには不十分である。

熊取谷・村上(1992)は、「助言」という発話行為を「話し手(助言の送り手)の現状認識・評価に基づき、聞き手(助言の受け手)が現在もしくは将来おかれる状況(S1)を、聞き手の行為(X)によって、より望ましい状況(S2)に変えさせようとする意図の元に遂行される発話行為」と規定している。「助言」は「S1」「S2」および聞き手の行為「X」を3つの要素とし、“(Do X for S2 because S1(is not desirable))”という語用論的構造を持っていると述べている。現実存在する多様な「助言」表現は、その語用論的構造を構成する3つの要素の組み合わせからなる7種のストラテジー(Xの提示、S1の提示、S2の提示、X+S1の提示、X+S2の提示、S1+S2の提示、X+S1+S2の提示)に集約できると指摘している。また、「助言」は次のような構成条件を持つ発話行為であると述べている。

- ①聞き手がおかれている、あるいはこれからおかれようとする状況(以下 S1 と記す)を異なる状況(以下、S2 と記す)に変えようとする試みである。
- ②該当行為は話し手による以下のような現状認識・評価に基づき遂行される。
 - (ア) S1 は聞き手が今置かれる状況、或いは話し手の考えでは聞き手にとって望ましくない状況である。
 - (イ) S2 は聞き手にとって、より望ましい状況である。
 - (ウ) S2 を生み出すためには聞き手の行動 X が必要とされる。
- ③該当行為を遂行しなければ、聞き手は S2 を生み出す行為を行わないと、話し手は信じている。
- ④該当行為は感謝の対象となり得る。
- ⑤該当行為は受け入れるもしくは拒絶の対象となる。

以上のように、ドラマで使われる「助言」の会話を分析するにあたり、言語行動のプロセスや構成を説明するには、熊取谷・村上(1992)の定義が適切であると考えられる。したがって、「助言」のストラテジー分類を、熊取谷・村上(1992)の7つのストラテジーに準じて議論するこ

とにした。

2.2 「助言」に関する先行研究

「助言」についての日本と英語圏とを比較した研究は多数みられる。先行研究(例えば、鶴田, 1992; Hinkel, 1994)によると、英語が話されるアメリカ社会での助言行為は、社会的地位や年齢とは無関係であること、話し手(助言の送り手)の考えを押しつけるものではなく、聞き手(助言の受け手)に決定権を委ねる配慮(giving decision control)が重要であること、話し手が一方的に導入する助言は避けられること(求められなければ助言しない)という特性があるとしている。それに対して、英語母語話者に比べて、日本人は求められていない助言を行う頻度が高く、その言い方も直接的であると報告されている(Hinkel, 1994)。こうした行為の背景には、日本人にとって、助言は、共感や仲間意識を生み出すために望ましいものだと考えられる(東, 1997)。日本社会においては、相手に頼まれる以前に、相手の気持ちを察して何かを助言することは、お互いの関係を親密にしたり、仲間意識を育てたりするのに有効な方法であるとみなされる傾向がある。

しかし、日中の対照研究に関しては、「依頼」「勧誘」「断り」の発話行為に関する研究が多くみられるものの、「助言」に関する研究は少ない。日中の「助言」について、対照研究を行った元(2012)は、日本人大学院生と中国人留学生を対象に、「知り合いのお土産選択について助言する」「親しい人に恋人に送るプレゼントについて助言する」「初対面の人に大学院入試や留学手続きについて助言する」という3つの場面を設定し、2人が1組で各母語による助言場面のロールプレイを行い、録音したデータを文字化して、日中の助言構造について考察した。助言の展開パターンについては、初対面の人に助言する場面で、日本人は受け手が主に質問し、送り手が答えるという一方向的な形式となるのに対し、中国人は助言談話双方も質問するという双方向的な形式をとること、経験談を伴う場合で日本人は選択性を相手に委ねるのに対し、中国人は自分の助言を納得させようとする事が分かった。以上のように、助言の対照研究はある特定の場面に絞って研究するものが多いようである。しかし、日常生活の中でわざわざテレビやラジオ相談番組で助言を求めることはあまり見られない。また、進路相談や心理相談などのような助言場面は特定の時期では遭遇するが、平日には頻繁に行われることとは言いにくい。そこで本研究は、日常生活を反映する日本と中国のテレビドラマにおける助言発話、特に助言の送り手に用いられている伝達戦略に焦点を当て、日中の助言の戦略の選択における共通点と相違点を分析し、

どのような傾向がみられるかを考察することにした。

熊谷(2003)は、「ドラマが、多くの日本人が抱き得る日本語使用のイメージを具現化したものだ」とすれば、実例ではなくても、日本語コミュニケーションに関して、そこから見出せることはあるはずである」と述べた。本研究では、この見解に基づき、日常生活を反映しているテレビドラマのセリフから抽出した助言発話は日中の助言戦略選択対照分析の素材として妥当性を持つものとする。

3. 助言の戦略

日常生活を描いた家庭、学校、職場に関連した TV ドラマを対象にして、言語の異なる2種類のドラマの画像を見ながら「助言」談話場面の発話を文字化した。使用した日本語のドラマは『バラのない花屋』、『愛くるしい』、『Change』、『華麗なる一族』、『白い巨塔』、『女王の教室』および『Code Blue』であり、中国語のドラマは『杜拉拉升职记』、『步步惊心』、『当婆婆遇上妈』、『裸婚时代』、『十八岁的天空』、『夫妻那些事』である。中国語ドラマである『步步惊心』に関しては清の時代のことを背景にしているが、主人公が時空を超えた 21 世紀の人であり、ドラマのセリフも現代人にとって違和感のない会話であるため、ドラマを選択する上で問題がないと考える。日本語の TV ドラマの会話から「助言」の談話を 264 例、中国語の TV ドラマの会話から「助言」の談話 261 例を集めた。中国語と日本語の TV ドラマの「助言」の戦略選択の結果は、表 1 で示した通りである。

表 1 「助言」の戦略の頻度分布と全体に占める割合

戦略の種類	日本語ドラマ会話	中国語ドラマ会話
X	50 (18.9%)	75 (28.6%)
S1	63 (23.8%)	51 (19.5%)
S2	4 (1.5%)	3 (1.1%)
X+S1	110 (41.6%)	105 (40.2%)
X+S2	15 (5.6%)	11 (4.2%)
S1+S2	12 (4.5%)	8 (3.1%)
X+S1+S2	10 (3.7%)	8 (3.1%)
合計	264 (100%)	261 (100%)

ストラテジーの種類と日本語・中国語ドラマ会話における「助言」のストラテジーの頻度について独立性の検定を行った。その結果は有意ではなく[$\chi^2(6)=8.143, p=.228, ns.$]、両言語におけるストラテジーの種類による「助言」頻度に違いがないことが分かった。さらに、日中両言語に違いがないので、両言語を合わせたストラテジー種類における使用頻度に違いがあるかどうかを一様性の検定で検討した。その結果、有意になった[$\chi^2(6)=492.267, p<.001$]。つまり、両言語の違いはないが、7つのストラテジーの種類の頻度には違いがあることが分かった。そこで、以下に「助言」のストラテジーの種類の頻度の多い順に検討していく。

表1を見て分かるように、両言語においては7つの助言ストラテジー種類は均等に選択されるのではなく、特定のストラテジーに片寄っている。最も頻繁に選択されているのは「X+S1の提示」であり、日本語と中国語の両言語とも全体の40%以上を示している。次に多く選択されたのは「S1の提示」と「Xの提示」である。他の4つの助言ストラテジーの選択頻度は日本語・中国語のいずれにおいても低かった。次は各ストラテジーについて使用例を挙げ、分析する。

3.1 「X+S1の提示」

「X+S1の提示」は両言語において最も選択頻度が高い助言ストラテジー種類である。熊取谷・村上(1992)はS1の内容は、聞き手が現在置かれている状況、聞き手にとって望ましくない状況が当てはまると述べている。しかし、本研究で収集したデータによると、S1には上記の内容ばかりではなく、経験談、常識および普遍的な真理も入る例が見つかった。したがって、これらの内容もS1に加えるべきである。以下に、「X+S1の提示」におけるS1の内容について具体的な例を挙げて説明する。

3.1.1 S1は聞き手が今置かれている状況である場合

(1) (万俵家族の宴会後。相子は万俵家族の大黒柱である万俵大介の執事兼愛人、美馬は長女一子の夫。美馬は東京からこの宴会に赴き、宴会が終わってから東京に戻る。美馬は財務省で働いており、万俵家族の財務に関する情報源である。宴会が終わった後、大介は美馬に財務省の政策などについて相談するつもりである。)

相子:(S1)美馬さんの最終の新幹線の時間が迫っております。

(大介に顔を向け、)

X→お話があるようでしたら、そろそろ… (『華麗なる一族』)

(2) (「刘易阳」は部下の「孙晓娆」が作った CM セリフに不満がある、その不満を同僚の「苏珊」に言う。)

刘易阳：苏珊、你这个孙晓娆不是凡人啊、你看过她写的广告语吗？

苏珊：看了、

X→我劝你还是忍耐一下、

(S1) 这个孙晓娆有背景、据说她来公司是因为和总裁有点关系。(『裸婚时代』)

上記2例の助言発話が「X+S1の提示」というストラテジーの使用例で、S1は聞き手の今置かれている状況である。(1)で相子は現状 S1「終電の時間が迫ってくる」を説明し、その現状には「美馬がそろそろ帰る」という情報が含まれている。それから「美馬がまだいるうちに早く相談に行くべきだ」という行動 X を提示した。(1)とは逆に、(2)は行動 X を提示してから、S1を行動 X の遂行されるべき背景知識として追加し、そのような現状や背景知識から行動遂行の必要性を相手に理解してもらっている。

3.1.2 S1 が聞き手にとって望ましくない状況である場合

(3) (和美、雄介と進藤はクラスメート、進藤は他人と友達になるのは嫌がっている。和美はその理由を見つけ出すつもりである。)

和美：行くわよ。

雄介：どこへ？

和美：進藤さんの家。

雄介：X→やめた方がいいんじゃないの？

(S1) またすぐ冷たくされるし。(『女王の教室』)

(4) (和美と馬場はクラスメート、二人は当日の日直である。二人は教室を掃除している。)

和美：あっ、馬場ちゃん！これ読んでくれる？

馬場：何これ、何らかの陰謀？

和美：何いってんの、そんなんじゃないよ。

馬場：X→こんなことしてる暇あったら早く掃除なさいよ。

(S1)授業の前に教室が汚れてたら先生に怒られるでしょ。 (『女王の教室』)

(5) (「奶奶」はおばあさんで、孫「刘易阳」の子のため靴を作っている。「刘易阳」の母「刘母」がそれを見て、)

刘母: X→妈、别做了。

(S1) 您做的那玩意、别人不一定喜欢。

奶奶: 喜欢不喜欢不管、这是我的心意。 (『裸婚时代』)

(6) (明慧は8番目の王子の妻、明玉は明慧の妹、若蘭は8番目の王子の妾、若曦は若蘭の妹。明玉は皮肉なことを言って若蘭姉妹をからかう。)

明慧: X→明玉、别说了。

(S1) 否则要惹贝勒爷不高兴。 (『步步惊心』)

上記挙げた4つの例は「X+S1の提示」であり、S1 は行動 X を遂行しないと起こる将来の望ましくない状況である。話し手と聞き手の関係は家族や親友である。(3)の助言場面では友達の行動を止め、その行動が遂行すると将来置かれる良くない状況「冷たくされる」を提示した。(4)では馬場が和美に掃除を促し、そうしないと「先生に怒られる」という良くない状況を提示した。(5)では姑の行動を止め、「靴を作っても子供が気に入らない」という状況を提示した。(6)で姉は妹がやっていることを止め、「夫が怒る」という良くない状況を提示した。直接的な行動 X の提示にその行動を遂行しないと起こる望ましくない状況を加えることで、X の遂行の必要性が一層明らかになった。また、望ましくない状況を提示することは、事情を悲観的ということで、聞き手を脅かすことになる可能性があり、親しい間柄には比較的に使われやすい。

3.1.3 S1 が経験談、常識および普遍的な真理である場合

(7) (花森恵子は財前五郎の愛人。財前五郎が大事な手術に成功したので、同僚と祝い中、花森恵子が財前に電話を掛ける。)

花森恵子: X→五郎ちゃんはおめでたいところがあるから気をつけたほうがいいわよ。

財前五郎: 俺が、おめでたいだど?

花森恵子: (S1) 自信家ほどはしごをはずされやすいものよ。

X→上り詰めたかったら、もっと陰險な用心深さを持たないと。

(電話の切る音)

(『白い巨塔』)

上記の例は「X+S1の提示」である。S1 は一般認識や常識である。(7)で提示された常識「自信家ほどはしごをはずされやすいもの」から将来の望ましくない状況が予測され、後で提示された行動の説得力をより一層強くすると考えられる。

実際の助言場面で「X+S1 の提示」に「今置かれている状況」「望ましくない状況」「経験談、常識および普遍的な真理」の内の1つ以上を含めて提示する場合もある。

(8) (「林君」と「那依」は親友である。「那依」は流産後相変わらずヨガに行った。それをみた「林君」は「那依」に話す。)

林君: (S1) 你真是不要命了。

(S1) 你现在不调养好、将来会落下病根的。

X→我跟你说、现在不要上课、在家好好休息、然后吃点营养品。

(『夫妻那些事』)

(8)の例も「X+S1の提示」である。「那依」の今の状況を大げさに表現(你真是不要命了)してから、自分の経験談から望ましくない状況(将来会落下病根的)を提示した。前のコンテキストに続いて提示した行動の必要性は一層増えたと考えられる。

(1)から(8)では、「X+S1の提示」である。「S1の提示」が行動を提示する理由として機能している。「X の提示」のみでは、「依頼」「命令」という発話行為とは共通しているので、「依頼」と「命令」を聞き手が混同する可能性がある。そのため、助言が押しつけがましくなることがある。また、話し手の好意と助言意図が相手に伝わらず、拒絶されることもありうる。「X の提示」に加えて S1を提示する理由は、それらの因果関係を聞き手に明示することで、助言であることを相手に納得してもらえらるようによることである。つまり、対人配慮を持った助言を使うことで、発話の効率性をある程度犠牲にしても、伝達効果がより良くなる。

3.2 「X の提示」

直接的な行動のみを提示する「X の提示」というストラテジーは「X+S1の提示」というストラテジーの次に、両言語においても比較的選択頻度の高いストラテジー類型である。行動 X のみ提示することは、助言の効率性は高いが、相手への配慮は少なく、親しい関係の場合

合では比較的に使われやすい。

(9) (和美が親の仲をよくさせようとする。姉の優が和美を連れて部屋に入る。)

優: X→あの2人を仲良くさせようとか無駄なことしない方がいいって。(『女王の教室』)

二人は姉妹なので、姉が妹に直接的な言語行動をとった。姉の優が普段の経験から妹の行動の効果を想像し、「無駄だ」と判断し、妹の行動を止めた。

(10) (「唐鵬」の妻「林君」は普段飲んでいる避妊薬がビタミンCにすり替えられていたことを発見した。「唐鵬」は幼馴染の「大头」に電話を掛け、それについて話している。)

大头: 这么快就被发现啦、她真神了。

唐鵬: 这维C的味道确实是一尝就能尝出来的。

大头: X→那你再给她换一味道差不多的呗。(『夫妻那些事』)

上記2例とも「Xの提示」である。話し手と聞き手は親しい関係であり、直接的に行動Xを提示した。親しい関係なので、対人配慮はあまり要求されず、直接に行動を促しても失礼にはあたらない。「Xの提示」のみを提示する場合、対人配慮を犠牲にして、助言の効率性のみが優先される。

3.3 「S1の提示」

「Xの提示」と同じく、「S1の提示」という助言ストラテジーは両言語において、「X+S1の提示」の次に選択頻度の高いストラテジーである。しかし、使用頻度の高い「X+S1の提示」と「Xの提示」とは違い、「S1の提示」にXという行動が含まれていない。ゆえに、「S1」のみ提示する場合、助言意図の認知と伝達が他の高使用頻度の助言ストラテジー類型より難しくなり、助言の効率性も低くなる。

(11) (頭取室に、大介が参加すべき融資会議がある。)

部下: (S1)頭取、融資会議のお時間です。(『華麗なる一族』)

(12) (相子と大介が事務室にいる。まもなく家族宴会の時間である。)

相子: (S1)そろそろお時間ですわよ。(『華麗なる一族』)

(13) (孫は 20 代の女性、「刘易阳」の部下である。孫が同僚と喧嘩後、何も言わずに立っている。「刘易阳」は孫に言う。)

刘易阳: (S1) 出来工作最重要是心情好。如果像你这样、你以后上班会比上坟的心情还沉重。 (『裸婚时代』)

(11)、(12)、(13)は「S1の提示」という助言ストラテジーの使用例である。3つの例とも話し手と聞き手の関係は上下関係である。(12)の例で、相子は大介の執事兼愛人であるが、その場合まだ仕事で、発言時の身分は大介の部下である。上司に助言する場合、直接的に行動を促すと押し付けがましい印象を与え、不適切なやり方であると考えられる。相手との人間関係によって高度な対人配慮が要求される場合、現状のみ提示し、現状から何をやるべきかという因果関係のある認識過程を聞き手に渡すというやり方は、失礼にはならないと考えられる。(11)、(12)は部下が上司に助言する場合であり、(13)は上司が部下に助言する場合である。(13)の場合、仮に直接的な言語行動をとると、相手の領域に入り込んで行動を指示し、機嫌の悪い相手にとって唐突に感じられ、助言が拒絶される可能性が高い。「刘易阳」は男性の上司という立場から、今まだ怒っている女性の部下に助言を与える場合、まず長期勤務経験のある人の立場から自分の経験談「仕事するには一番重要なのは気持ちいいことです」を提示して、後は行動 X を遂行しないと起こる聞き手にとって望ましくない状況を提示した。直接的なストラテジーより婉曲的な助言ストラテジーの伝達効果の方が良いと思われる。

「S1」のみ提示する場合、対人配慮は優先され、助言の効率性は犠牲にされた。上下関係の差が大きい場合、また初対面の人に助言を与える場合よく使われる。しかし、相手が親しい関係であっても、「S1」のみ提示する例も見られる。

(14) (近頃、娘のしずくがお笑い芸人のパペットマペットのような頭巾を平時被って顔を父に見せないようにしている。父の英治がそのことに気になって、娘のことを心配している。ある日の朝、朝食終わり、娘のしずくが学校に行くところ。)

英治: あのさ、

しずく: うん?

英治: (S1) 今日ね、雨降るらしい。

しずく: 持ったよ、カバンに。

(『バラのない花屋』)

(15) (娘の「童佳倩」が妊娠した。しかし、「童佳倩」の恋人「刘易阳」の両親が縁談を持ち込まないことに、「童佳倩」の母は不満を持っている。「童佳倩」の家族三人で「刘易阳」の家に行き、「童佳倩」の母は力を入れてドアを叩く。)

童佳倩: (S1) 妈、有门铃。

(母はもっと力を入れてドアを叩く、)

童佳倩: (S1) 妈、有门铃。

(『裸婚时代』)

例(14) (15)で選択された助言表現は「S1 の提示」である。2 例とも親子間の発話である。(14)では、雨と傘は関連性のあるもので、雨が降れば傘が必要という認識は娘と父親の共通認識である。「雨が降るらしい」を提示するだけで、しずくがその関連性から「傘を持つべき」という助言意図を理解し、自分の状況「傘ならカバンにある」を英治にフィードバックした。また、(14)の場合、父親は娘のことが気になっており、娘の異常行動をできるだけ尊重したい、傘を持たせることでも、娘に押しつけがましい印象を持たせたくないという配慮から、S1のみ提示した。

(15)の場合、話し手が S1 のみを提示しているのは「押し付け」の度を軽減するためであると考えられる。母は既に不満があるため、もし「軽くドアを叩いて」と聞き手の行動Xを指示したら、より不満になることが想像できる。その考えから娘はS1を提示しただけである。母はS1の提示からXの助言を十分に理解できたが、納得できないため、もっと力を入れてドアを叩いた。(14)、(15)の助言談話では、話し手と聞き手の関係は親子であるが、助言表現類型「S1 の提示」を選択した理由は同一ではないと思われる。

以上では三つの選択頻度の高い類型を分析してきたが、下記において選択頻度の低い4種類のストラテジーの例を見ていく。

3.4 「X+S2 の提示」、「X+S1+S2 の提示」、「S1+S2 の提示」と「S2 の提示」

「助言」のストラテジー分布表からわかるように、「X+S2 の提示」、「X+S1+S2 の提示」、「S1+S2 の提示」と「S2 の提示」は日本語と中国語のいずれにおいても比較的に選択頻度が低いストラテジーである。

3.4.1 「X+S2 の提示」

(16) (寝る前、姉妹が雑談。和美がひかるの話を姉に伝える。)

和美: 私と友達になる人なんか一人もいないって、私みたいに何も知らないくせに、心の中に土足で入ってくる人間は迷惑なだけだっ。

姉: 確かにね

和美: やっぱそうなんだ

姉: (X)→何も知らないのがいけないんだったら、知っちゃえばいいじゃん、みんなのこと、

(S2) そうすりゃオッケーってことでしょ

(『女王の教室』)

(17) (二子には自分に好きな人がいると兄の鉄平に伝え、応援を求めにきた。鉄平の妻早苗もそれを聞いた。)

早苗: だったら、私も応援しなくちゃね、

二子: やだ、聞いてたんですか、早苗さん

早苗: X→ゆっくりしてったら?

(S2) 相子さんのいないところの方が二子さんも落ち着くでしょう

(『華麗なる一族』)

(18) (童佳倩は顧客からもらった栄養食品を恋人の劉易陽に渡し、それを彼の親に送るようにと言った。しかし、劉易陽は童佳倩の親に送った方がいいと考えている。)

刘易阳: X→要不你拿回去给你妈吧、说是我送的、

(S2) 说不定你妈就……

(『裸婚时代』)

以上の3つの助言談話では、行動Xを言及し、相手のXによって将来の望ましい状況を提示しXの行動を推奨することで、行動の遂行を促す。(18)の場合、S2は「说不定你妈就……」といい、将来どんな状況があるかは省略されたが、「望ましい状況、いいこと」という認識が話し手と聞き手にとって言うまでもないことで、S2の提示と見なされる。

3.4.2 「X+S1+S2の提示」

(19) (馬場と和美はクラスメートである。二人が廊下を拭いている。馬場は気を落としている。)

馬場: 私なんかブスだし、何の取得もないから、友達もないし、

和美: (S1)馬場ちゃんかわいいじゃん、ただちょっと人の目を気にし過ぎなだけで、

X→もっと自信を持ってさ、自分のこと好きになったら？

(S2)きっとなんかいいことに会えるんだ。 (『女王の教室』)

(20) (夜、童佳倩の家。童佳倩は結婚せずに妊娠した。童佳倩の母は娘の結婚に反対している。娘は早く結婚したい。)

童母: 佳倩啊、我说你怎么不知道愁啊？

佳倩: 为什么啊？

童母: 我怎么生了你这么个不懂事的孩子啊。

佳倩: X→妈、您就别后悔了、

(S1) 您生都生了、再说你看我都长这么大了。

X→这样吧、您呀就赶紧给我嫁出去、

(S2)眼不见心不烦。 (『裸婚时代』)

熊取谷・村上(1992)で助言プロトタイプ Do X for S2 because S1(is not desirable)が挙げられている。「X+S1+S2 の提示」は助言表現のプロトタイプであるが、表 1 をみてそのプロトタイプが実際の言語運用で頻繁に使われていないことがわかる。(19) (20)は助言のプロトタイプの実際言語運用の例である。(19)では聞き手の状況S1を提示し、Xの行動を引き出す。続いてもし行動Xを遂行したら望ましい状況S2があると指摘し、相手の行動を促していると考えられる。(20)では娘は母の今悩んでいる状況から、「自分を嫁にさせ、母は悩まずに済む」という助言意図を母に伝えているので、「X+S1+S2 の提示」になる。

3.4.3 「S1+S2 の提示」

(21) (二人の学生たちの遅れで授業を始めるのが 2 分間遅れた。そこで、先生であるマヤが授業を終わらせるのも 2 分間遅らせたので、学生たちは不満を持っている。)

マヤ: (S1) 人生は一分一秒の積み重ねです。時間を無駄にする者は人生を無駄に生きるのと同じことなんです。そういう人がいること自体クラスにとって有害だと思わない？ イメージできる？ どんなに立派な会社でも、ちゃんと仕事をしているのは全体の 30%くらいなんです。後の 50%は何もしないのと同じだし、残りの 20%に関しては人の足を引っ張っているだけ。問題は一生懸命やっている人も足を引

っ張っている人を見ているうちにバカバカしくなって何もしなくなることです。そして会社はあっという間につぶれます。今まさにそれと同じことがこのクラスでも起ころうとしているのよ。

(S2) だったら、足を引っ張る 20%の人なんて、いない方がまだとは思わない？
(『女王の教室』)

(22) (八番目の王子と十番目の王子は仲が良い。十番目の王子は皇帝の命令に従い、好きではない女性明玉と結婚した。新婚の夜、十番目の王子は嬉しくない。八番目の王子は十番目の王子に話す。)

八番目の王子: (S1) 你身为皇子、既然享受了别人无法享受的权威、当然也要做出牺牲、岂能为情爱牵绊。

(S2) 娶一个能助自己成事的女子、讨皇阿玛欢心才是最重要的。

(S1) 男女的情爱、只不过是锦上添花之物、并不长久。(『步步惊心』)

例(21)では、マヤが S1 の提示において、常識と今置かれている状況を提示した。S2 の部分において、より望ましい状況「足を引っ張る 20%の人がいない」を提示した。(22)で話し手が聞き手の置かれている状況を分析し、聞き手にとってより望ましいことを提出している。最後のコメントでは話し手が現状に基づく認識を提示した。「S1+S2 の提示」によって聞き手に助言する。

3.4.4 「S2 の提示」

「S2 の提示」は 7 つの分類に使用頻度が最も低い類型である。

(23) (銀平の妻祥子は家を出ると言った。銀平もこの家にもう希望がないと思い、妻の決定に反対しない。)

祥子: 引き留めてもくれないですか？

銀平: (S2) 君は自由になった方がいい。

(『華麗なる一族』)

(24) (童佳倩のデスク上のものは散らかっている。上司が来た。)

童の上司: (S2) 以后这办公桌上、希望看到的是办公用品、OK? (『裸婚时代』)

(23)では夫の銀平はもう万俵家族の事が嫌になった。妻の祥子はこの家にふさわしくないといい、祥子の家出に賛成であるため、この家を出た方がいいという助言を送った。(24)では上司は将来の望ましい状況「仕事以外のものがない机」を提示し、「早くデスクを片付けた方がいい」という助言意図を伝達した。

4. 考察

本研究では、熊取谷・村上(1992)の助言ストラテジー分類を基に、経験談、常識および普遍的な真理を S1に加えた。その上で、助言の送り手の発話に焦点を当て、ドラマから中国語・日本語助言発話データを収集し、日中の助言のストラテジーの選択における共通点と相違点を分析することで、どのような傾向がみられるかを考察した。本研究の結果は、以下の3点に要約されよう。

第1に、両言語を合わせたストラテジー類型における使用頻度に違いがなかった。両言語において、「X+S1の提示」、「X の提示」および「S1の提示」という3つのストラテジーが選択頻度に大きな割合を占めている。「S2 の提示」、「X+S2 の提示」、「S1+S2 の提示」、「X+S1+S2 の提示」という4つの助言ストラテジーのいずれも選択頻度が低かった。「X の提示」は聞き手に対してどのような行為をとるべきかを示す行為指示として機能する。そのため、より直接的に助言意図を伝達・認知することが可能であり、頻用につながると考えられる(鹿嶋, 2000)。そのため、「X の提示」が含まれている伝達タイプの使用頻度は高く、「X の提示」が含まれていない伝達タイプの使用頻度は低いと思われる。鹿嶋(2000)は「X+S1の提示」の選択頻度は「X の提示」より高い理由を以下の通り説明した。「X の提示」のみでは、行為 X が聞き手に利益をもたらすという認識・判断が聞き手に伝わらないことがあり得る。これらを合わせて提示することによって、その意図がより明確に伝達可能になると考えられる。聞き手の側からすれば、単一の構成要素を提示されるよりも、複数提示される場合の方が、相手の意図を推測するのに容易なのは言うまでもなかろう(鹿嶋, 2000, p.96)。しかし、本研究で収集したデータから見ると、「X+S2 の提示」の選択頻度は低い。S2は、行動の遂行によって実現できる聞き手にとって望ましい状況である。しかし、その状況はあくまで主観性の高い表現で、不確定なことである。それをを用いると助言の信頼性は低くなると思われる。また、望ましくない状況に比べ、望ましい状況を提示する助言のインパクトは低くなると思われる。「X+S1+S2 の提示」は助言の語用論構造のプロトタイプと言われているが、その選択頻度が低かった。Grice(1989)が提出した会話の効率性の原理を具体化した4つの実践

原則の一つ「量の原則」、つまり、会話する時「求められる量より多く言ってはならない、求められる量より少なく言ってはならない」によって、人間が助言を行う際に、簡潔明瞭な伝達で、表現意図が伝わることは理想的である。「X」「S1」「S2」は関連性のある構成要素で、そのうちの1つか2つを提示することで伝達意図が伝わる。ただし、3つの内容を同時に示すという伝達ストラテジーは、煩雑さがあるため、敬遠される傾向があり、選択の頻度が低くなると考えられる。

第2に、話し手は助言を行う際に、3つの要素「S1」「S2」「X」とその組み合わせのいずれを提示するかは場面に依存し、聞き手との距離と押し付けの度合を認知しながら伝達ストラテジーを選択する傾向が見られた。例(9)、(10)のような話し手と聞き手の関係は親しい場合、助言の効率性を重視し、対人にあまり配慮しない「Xの提示」という助言ストラテジーの方がより現れやすいようである。例(11)、(12)のような話し手と聞き手の関係は親しくない場合、例(13)、(14)、(15)のような対人配慮が必要な状況に置かれている場合に、より対人配慮を重視し、助言の効率性をある程度犠牲にした助言ストラテジー「S1の提示」の方がより現れやすいようである。従って、人間関係と事柄が助言のストラテジーに関与していることが分かった。助言の明晰性を重視すると同時に、対人配慮も必要と考えられる。

第3に、両言語におけるストラテジーの類型による「助言」の頻度は同じである。日本人は「間接的」「婉曲的」な特徴を持っている社会集団群であると言われており、中国人は「直接的」「自己主張が強い」と言われている。久米・徳井・徐(2000)は日本人のコミュニケーション様式は「迂回型・渦巻き型」であり、「間接的」であることに対し、中国人のコミュニケーション様式は「対決型・直線型」、「直接的」であるとしている。つまり、日本人と中国人のコミュニケーション様式には違いが存在するという主張である。両言語における助言ストラテジーの選択頻度から見ると、頻度そのものには違いは存在しないようである。本研究では、特定の場面を設定せず、テレビドラマにおける両言語の助言ストラテジー選択頻度を全体的にみた。したがって、同じ場面における文化差、上下関係および親疎関係による助言表現の違いについては調査していない。また、Tamaoka・Lim・Miyaoaka & Kiyama (2010) および林・玉岡・宮岡・金(2010)は、日韓両言語において聞き手が話し手から見て同性か異性かという性差がポライトネス・ストラテジーに影響すると指摘した。この性差の要因も日中助言表現に影響を及ぼす可能性がある。性差については今後の課題としたい。

[参考文献]

- 東照二(1997)『社会言語学入門—生きた言葉のおもしろさに迫る』 研究社.
- 鹿嶋恵(2000) 助言における表現選択と意図の伝達—相互作用過程とコンテキストからみた談話分析.『三重大学日本語学文学』 11、106-94.
- 熊取谷哲夫・村上恵(1992) 表現類型に見る日本語の「助言」の伝達方略.『表現研究』55、28-35.
- 熊谷智子(2003) シナリオのある会話—ドラマの日本語の特徴 (特集:ドラマの日本語).『日本語学』 22(2)、6-14、 明治書院.
- 久米昭元・徳井厚子・徐一平(2000) コミュニケーション様式の日米中比較研究—小集団討論の質的分析を通して.研究代表者井上和子『先端的言語理論の構築とその多角的な実証(4-B)』(平成8年度 COE 形成基礎研究費研究成果報告 4) 625-672
- 元春英(2012) 「助言」の談話構造に関する日中対照研究 : 日本人大学(院)生と中国人留学生のデータをもとに.『日中言語対照研究論集』 14、93-104.
- 町田佳世子(2006) 対人コミュニケーションにおける社会的関係の尊重という欲求—アドバイスという発話行為の分析をもとに.『北海道東海大学紀要』19、89-102
- 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生・金秀真(2010) 丁寧度判定で測定したポライトネス・ストラテジーの要因に関する決定木分析.『日本文化学報』47、101-115.
- 鶴田庸子・ポールロシター・ティムクルトン(1988)『英語のソーシャルスキル』 大修館.
- Brown, P., & Levinson, S. C. 1978. Universals in language usage: Politeness phenomena. In Esther N. Goody, (Ed.), *Questions and politeness*, pp. 56-289. Cambridge: Cambridge University Press.
- Brown, P., & Levinson, S. C. 1987. *Politeness: Some Universals of Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Grice. 1989. *Studies in the way of words*. Harvard University Press.
- Hinkel, E. 1994. *Appropriateness of Advice as L2 Solidarity Strategy*. R. E. L. C. Journal. 25 (2). 71-93.
- Leech, G. N. 1983. *Principle of Pragmatics*. London: Longman
- Searle, J. R. 1969. *Speech Acts. An essay in the Philosophy of Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Searle, J. R. 1979. *Expression and Meaning*. Cambridge: Cambridge University

Press.

Tamaoka, K., Lim, H., Miyaoka, Y., & Kiyama, S. 2010. Effects of gender-identity and gender-congruence on levels of politeness among young Japanese and Koreans, *Journal of Asian Pacific Communication*, 20, 23-45.

Tsui, E. B. M. 1994. *English Conversation*. Oxford: Oxford University Press.

附録：中国語例文の参考訳文

(2) 刘易阳: 苏珊、この孫って人、ただものじゃないね、彼女が書いた CM セリフを見た？
苏珊: もう見ました。我慢した方がいいと思います。彼女は頭取の関係でこの会社に入ったそうです。

(5) 刘母: お母さん、やめといて、お母さんが作っているの、今の人が気に入るとは限らないから。

奶奶: 気に入るかどうかはどうでもいい、これはあたしの気持ちなんだから。

(6) 明慧: 明玉、もうやめなさい。八爺様を怒らせますよ。

(8) 林君: あなたね、死にたいの。今ちゃんと休まないで、将来病気の元になるよ。あのね、授業に出るのをやめ、家でちゃんと休んで、栄養のあるものを食べなさい。

(10) 大头: もうばれちゃった？お前の奥さんはすごいね

唐鹏: その味をちょっとだけ舐めたらビタミン C だと断定できるよ。

大头: だったら味が同じぐらいの薬品に替えたらいいいじゃん

(13) 刘易阳: 仕事するには一番重要なのは気持ちいいことです。もしあなたみたいだと、これから仕事する時の気持ちは墓参りと同じですよ。

(15) 童佳倩: お母さん、ドアベルがあるわ。

(母がもっと力を入れてドアを叩く)

黄 郁蕾

童佳倩:お母さん、ドアベルがあるったら。

(18) 刘易阳:それじゃ、持って帰ってお母さんにあげて。そして私が送ったと言えば、たぶんお母さんは…

(20) 童母:佳倩、あなたは本当に「愁い」ってもの知らないね、

佳倩:どうして?

童母:なんで私はこのような聞き分けがよくない娘を産んだのかしら、

佳倩:お母さん、後悔しても無駄よ。もう生んじゃったんだから。ほら、もうこんなに大きく成長したでしょう。だからこうしましょう。早く私を嫁に出せば、母さんもいらいらしないでしょう。

(22) 八爷:あなたは皇帝の息子として、他人が体験できない権威を享受しているのだから、ある程度の犠牲も当たり前なことだよ。愛情にひきづられていけない。自分の事業の助けになる女性を妻にして、皇帝様を喜ばせることが一番重要なんだよ。男女の愛は、美しいものに更に美しいもので飾るだけで、長らく続きはしないものだ。

(24) 上司:このデスクの上では仕事の道具だけにして、OK?